The 38th
TOKYO MOTOR SHOW
Commercial & Barrier-free Vehicles
2004
News Vol.1 平成16年11月3日
第38回 東京モーターショー2004 @ 働くくるまと福祉車両

環境・人にやさしい“参加・体験型”ショーオープン

(社)日本自動車工業会主催、第38回東京モーターショーが11月2日(火)から7日(日)までの6日間(一般公開は3日から)、千葉・幕張メッセでオープンした。今回のサブタイトルは「働くくるまと福祉車両」とし、人々の生活を支える商用車・福祉車両ともに最新技術を駆使した環境・安全対応型の地球・人にやさしいクルマが出品されている。併せて昨年好評だったお客様“参加・体験型”を継続し、多彩なシンポジウムやショーを楽しく盛り上げるイベントをふんだんに催しビジネス層だけでなくファミリー層にもアピールできる“総合商用車ショー”に一新された。

華やかに“開会式”—来賓約650人が出席—

11月2日12時30分より、国際会議場2階コンベンションホールにおいて開会式が開催された。冒頭に東京モーターショー50年の歴史映像上映後、総裁である寛仁親王殿下のご名代として瑶子女王殿下のご臨席を仰ぎ華やかに行われた。この日の来賓は政・官・財界のVIPをはじめ業界関係者約650人が出席。主催者を代表して小枝至会長は「今回のショーテーマはVehicles for people. Vehicles as partner. “くるまは、私たちの信頼できるパートナーとして、未来を創る”。というメッセージを込め、日々進化している働くくるまと福祉車両とそれを支える最先端の技術をつぶさにご覧頂くことが出来ると期待しています」と挨拶。次いで中川昭一・経済産業大臣(代読)、北側一雄・国土交通大臣(代読)、堂本暁子・千葉県知事からそれぞれ祝辞が述べられたあと張富士夫副会長の開会宣言、ファンファーレ、瑶子女王殿下のテープカットにより盛況裏に午後1時閉会した。このあと殿下は小枝会長の案内で会場内を1時間ほどご高覧されたが、働くくるまの環境・安全技術に興味をもたれ、とくに身体障害者や高齢者にやさしい福祉車両の目覚ましい技術進歩に関心を示されていたご様子だった。

出展概要

初のトレードデー設定やホスピタリティに力を入れた会場づくり

中央メイン通路幅を従来の9メートルから12メートルに拡張し、ベンチや植栽を配置して休息スペースを増やした。運営面でも「乳児・幼児サービスセンター」を設け、ボランティアによる車いす来場者を場内サポート。次代ユーザーとなる小学生以下を入場無料とするなど家族で来場しやすいよう配慮した。なお2日は報道関係者および特別招待日だが、正午からは「トレードデー」となり多くのビジネスユーザーの商談する風景がみられた。

◇展示車の特徴“環境・安全・パートナー”が主流
―福祉車両“自由な移動”を提供―

平成17年から適用される「新長期」排ガス規制をクリアする環境対応のトラックを多数出品。一方では安全技術展示にも力を入れ安全アピールに余念がない。ほか、“動く店舗”など商用車ならではのカーライフが楽しめるアイデア車、ITSが実現する未来カーなど一般の人々にも十分楽しめるショーとなっている。また高齢化社会の進行や“障害者の社会参加”の取り組みにも積極的で福祉車両も一般家庭にも必要な移動手段となってきたことを感じさせる。各社のテーマと主な展示物の特徴は以下の通り。

東ホール

◇日産自動車　「もっとあなたのパートナーに。」すべての人が自由に“出かける喜び”を感じるライフケアビークルを用意。

◇日産ディーゼル　燃料経済と環境対応の両立を実現する車両展示。それに尿素SCRシステム、直噴CNGエンジン搭載など。

◇いすゞ　「プロフェッショナルパートナー」環境対応の最新ディーゼルエンジン、次期新長期排出ガス規制レベル対応のエンジン、福祉車両、みまもりくんオンラインサービス。

◇三菱自動車　福祉車両展示など。

◇三菱ふそうトラック・バス　品質、企業文化改革をパネルで説明のほか新長期規制対応の大型トラック、ハイブリッド小型トラック、歩行者認識システム。

◇ダイムラー・クライスラー　商用車、アクトロスとトランスポーターTIN。

◇ボルボ・トラック　ボルボFH12トラクター。

中央ホール

◇トヨタ　「環境と感動」、ビジネスからレジャーユースまでの多様な楽しい使い方提案と環境対応技術の展開。社会の要請に応えるクルマづくりへの取り組みなどを紹介。コンセプトモデルほか安全・環境技術を提案。

◇ダイハツ　「ワンダフル　スモール　未来系」、次世代軽商用コンセプトカー、自操式福祉車両、ハイブリッド車。

◇日野　「安全・環境フロントランナー」、新長期規制対応の大型ノンステップバス、高齢者・バリアフリー向け小型バスのコンセプトモデル、ほか安全・環境技術を提案。

西ホール

◇ホンダ　「ひとり一人がいきいきと」プレミアム福祉車両、ピックアップバン、新提案トラック、見て触って先進の技術が体験できる。

◇マツダ　「Zoom－Zoomを分かち合おう」、環境への配慮とドライバーの操作負担の軽減を追求。環境技術“RENESIS水素ロータリーエンジン、ディーゼルエンジン、アンゼン技術、高度運転支援技術など。

◇スズキ　「小さなクルマ、大きな未来」、軽商用車の新しい可能性を提案。足腰の不自由な方が助手席を乗降する負担を軽減する福祉車両など。

◇スバル　「Open all roadsクルマと生きる歓びを、すべての人に」、各車種に展開している福祉車両を紹介、下肢の不自由な方にもスバルの走りが疑似体験できる。

◇世界初、日本初発表は前回を上回る盛況

世界6か国・111社・1政府・1団体から206台（商用車136、福祉車両56、その他14台）を出品。展示車での話題はやはりこのショーで公開される世界初発表（ワールドプレミア）38台、日本初発表（ジャパンプレミア）15台の合わせて53台の“プレミアもの”だ。前回を上回る盛況ぶりで、部品プレミアも世界初30件、日本初25件と各社のコンセプトカーや最先端技術が惜しみなく披露される。

レセプション　約800人が和やかに歓談

開会式後の14時10分から、国際会議場2階のコンベンションホールで、寛仁親王殿下のご名代、瑶子女王殿下ご臨席のもと、モーターショー開会の祝賀レセプションが行われた。

商用車ショーは2000年に始まり、今回で3回目。冒頭、自工会の小枝至会長はあいさつのなかで「商用車ショーでありながら、一般客とビジネスユーザーの両方に対応できた。2007年には商用車、乗用車、二輪車、部品を合わせた総合ショーとなるが、商用車ショーの経験を生かしていきたい」と、モーターショーの発展拡大に意欲を見せた。

張富士夫副会長による乾杯の音頭の後、自動車業界関係者、各国大使館、政府関係者など約800人が和やかに歓談し、閉会の15時30分まで人の絶える間がなかった。

会場には自動車業界関係者、各国大使館および政府関係者、来賓など約800人が来場した。写真上は左から小枝至・自工会会長、堂本暁子・千葉県知事、豊田章一郎・トヨタ自動車名誉会長。

トピックス TOPICS　先進のIT設備やサービスが拡充 プレスセンター

国際会議場3階にブリヂストンの協賛で開設された東京モーターショーの情報発信基地、プレスセンター。開場直後から国内外のマスコミ関係者が詰め掛け、にぎわいを見せた。

ワークデスクは108席。8群に分けられた机には、パソコンをインターネットに接続するためのLANがほぼ全席分用意されるなど、IT関連設備は乗用車・二輪車ショー並みの規模に拡張された。最新のセキュリティシステムにより、ウィルスの侵入やハッキングも徹底的にブロックされている。パソコンは10台が常設され、誰でも利用可能だ。

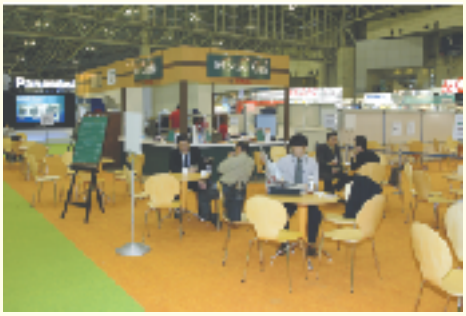
▶プレスセンター内のワークデスクにはLANポートが設けられるなど、IT化にも万全の対応。利用者は昼過ぎには早くも500人を超えるなど盛況。談話のためのラウンジ席も設置され、記者たちの懇談の場となった。

◀常設パソコンは日本語Windows6台、英語Windows2台、マッキントッシュ2台の計10台。日本人記者のみならず、アジア、欧米から取材に訪れたジャーナリストも原稿の送信などに利用していた。

収集した資料の無料宅配サービス、プレスブリーフィングの録画DVD閲覧、デジタル写真のCD-Rへの焼き付け、フリードリンク、写真現像など、プレス向けのサポートも充実。ルーム内では大勢の記者、カメラマンが、プレスブリーフィングなどで得た情報をいち早く配信すべく、さかんに原稿作成やデジタルカメラの画像処理を行う姿が見られた。

トピックス TOPICS　休憩に商談に活躍するマルチスペース モーターカフェ

商品や技術を展示するだけでなく、お客様との歓談、商談の場としてもモーターショーを活用したい――出品者からのそんな要請に応えるべく、西ホール中央付近にオープンカフェ「モーターカフェ」が開設された。



オレンジ色基調の落ち着いた雰囲気。ちょっと休息を取りたくなったときなどに気軽に利用できる。料金も低廉（写真左）。カフェの奥はテーブルごとにパーティションで区切られた商談スペース（写真右上）。

オレンジ色基調のテーマカラーにウッドテーブルを配したインテリアは、落ち着きがありながら洒落た雰囲気。カウンター近辺のテーブルはパブリックに開放され、誰でもコーヒーとクロワッサンなどでほっと一息つくことができる。また、カフェのエリアは持参したパソコンを、無線LANを介してインターネットに接続できる「ホットスポット」となっている。

カフェの奥のほうは出品者専用スペースとなり、さらにテーブルごとにパーティションで区切られた商談スペースも設けられている。

楽しめる多彩な参加・体験型イベント

自工会主催の「特別企画・シンポジウム」

参加・体験型ショーを彩るのが日本自動車工業会主催の特別企画などのイベント。子供からビジネスマンまで幅広い層の来場者ニーズに対応するため一日中楽しめる多彩な特別企画が盛りだくさん用意されている。以下ざっと紹介してみよう。

●特別企画

◇生活の中でのクルマの役割を体験できる「働くくるまと福祉車両の同乗試乗会」(特設会場)。
◇「働くくるまと働く二輪車体験ゾーン」(中央ホール)。
◇シニアカーや車いすの体験試乗と専門家による相談コーナー「福祉車両ウェルフェアパーク」(西ホール)。
◇女性に人気のエスニックを中心とした様々な料理やショッピングを楽しめるトラック店舗「働くくるまのトラックマルシェ」(屋外)。
◇展示場内でちょとひと休みや商談もできる「モーターカフェ(商談コーナー)」(西ホール)。
◇イベントが楽しめる「フェスティバルステージ」(屋外)。
◇「アンゼンジャー・こどもスタンプラリー」(会場各所)。
◇「はたらくくるまの絵本展」(西ホール)。

関連企画ではこどもから大人まで楽しめるミニカーの世界を提供する「トミカコーナー」(西ホール)。
若者向けに最新のクルマや往年の名車に試乗できる「グランツーリスモ4」試乗体験アリーナ(2階中央モール＋やすらぎのモール)。

●シンポジウム

クルマを取り巻く身近な話題を専門的な内容で、クルマの働きと役割を見つめる5日間。多彩なシンポジウム10テーマが3日から7日まで毎日開催されるのも来場者の関心を集めることだろう。

3日	◇13:30・国際会議室「バリアフリー社会の実現と私たちのあるべき姿」～福祉車両・交通バリアフリーからみた日本の未来～(自工会)。 ◇13:00・中会議室201「自動車の排ガス規制への取り組み」～地球環境と未来の車社会への挑戦～(スウェーデン大使館)。
4日	◇13:30・中会議室201「次世代物流システムとITS」～多様化時代におけるトラック輸送～(自工会)。 ◇13:30・国際会議室「考えよう！心の運転」～交通安全シンポジウム～(同)。
5日	◇10:30・国際会議室「世界最先端の低公害車づくり」～ディーゼル車公害ゼロを目指して～(国土交通省)。 ◇14:00・中会議室201「トラック重大事故への挑戦」～第5回自動車安全シンポジウム～(同)。
6日	◇14:00・国際会議室「環境に優しい貨物輸送をめざして」～モーダルシフト等によるトラック輸送の環境負荷低減～(環境省、環境再生保全機構)。 ◇14:00・中会議室201「みんなで考えよう、クルマの税金2004」(自動車税制改革フォーラム)。
7日	◇13:00・国際会議室「自動車リサイクル法」～あなたの車の義務と負担～(経済産業省、環境省、自動車リサイクル促進センター)。 ◇15:00・中会議室201「地球温暖化への対応」～最新クリーンディーゼル車について考える～(経済産業省)。

トピックス TOPICS

第２回「大型車グローバルミーティング」開催

日米欧、排ガス規制の国際規準制定に向けての協力で合意

第38回東京モータショーの開催に合わせて世界をリードする日米欧の大型トラックメーカーやエンジンメーカーなどの首脳が一堂に会する第２回「大型車グローバルミーティング」が、11月2日午後4時から、モータショー会場と隣接する幕張プリンスホテルで行われた。会議にはダイムラー・クライスラー、ボルボなど12社4団体の代表が出席し、日本自動車工業会大型車特別委員会委員長の蛇川忠暉・日野自動車会長が議長を務めた。

今回の会議では昨年10月にオランダ・アムステルダムで開催された第１回会合に引き続き、今後10年間にわたる大型車の排出ガス低減に向けた活動を中心に、約2時間にわたり積極的な意見交換を行った。

商用車はＤＰＦ(ディーゼル微粒子除去装置)やＮＯｘ触媒などの後処理技術を使用する新たな時代に突入。これらを有効に作動させるのに適正な燃料・潤滑油および還元剤の供給と使用が極めて重要であることから、会議では周辺環境についても国際的調和活動を進めていく必要があることなどを確認した。

このため、「世界燃料規則」「ＷＨＤＣ(国際規準調和排ガス試験法)の採用」「後処理技術」および「世界道路安全」の4つのテーマに焦点を絞った共同支援作業部会を設置することについても合意した。

今日のイベント！(予定)

参加・体験型イベントが盛りだくさん！

南休憩ゾーン	南休憩ゾーン	南休憩ゾーン
トラフィック戦隊アンゼンジャー	**キャンプ・ネポス**	**県警腹話術**
10:30～10:55 12:45～13:10 14:00～14:25	11:35～12:00 13:30～13:55	11:00～11:30

TOKYO MOTOR SHOW The 38th Commercial & Barrier-free Vehicles 2004

11月2日の入場者数 12,500人　入場者数累計 12,500人

東京モーターショーニュースVol.1　2004年11月3日発行
発行所　社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012　東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館
TEL.03-5405-6119　FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com
JAMA